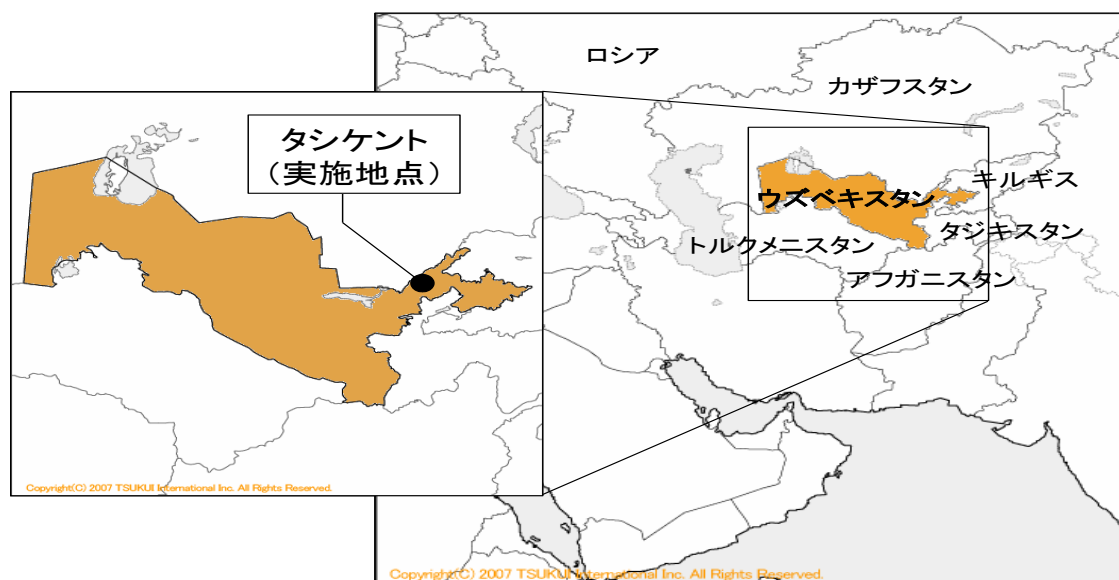


ウズベキスタンにおける省エネモデル事業の概要

1. ウズベキスタン共和国の概要



- (1) 面積 : 44.74万km² [日本の約1.2倍]
- (2) 人口 : 2,810万人(2012年) [日本の約22%]
- (3) 首都 : タシケント(人口222万人、2009年)
- (4) 言語 : ウズベク語(公用語)、ロシア語
- (5) 主要民族 : ウズベク人(80%)、ロシア人(5.5%)、
タジク人(5%)、カザフ人(3%)
- (6) 通貨単位 : スム(1スム≒0.07円)
- (7) 電力事情 : 発電電力量476億kWh(2005年) [日本の約5%]
電源構成は、天然ガス火力65%、石炭火力21%、
水力14%(2005年)
- (8) 気温 : 最高気温 36℃(7月の平均最高気温)
[タシケント] 最低気温 -1℃(1月の平均最低気温)

2. タシケント熱電併給所の概要

- 運転開始 : 1938年
- 従業員数 : 約500名
- 役割 : タシケント市内への温水、電気の
供給および周辺工場への蒸気供給
- 主要設備
 - 蒸気ボイラ5台、温水ボイラ7台
 - 燃料 : 天然ガス
 - 蒸気タービン1台
 - 出力 : 22,500kW

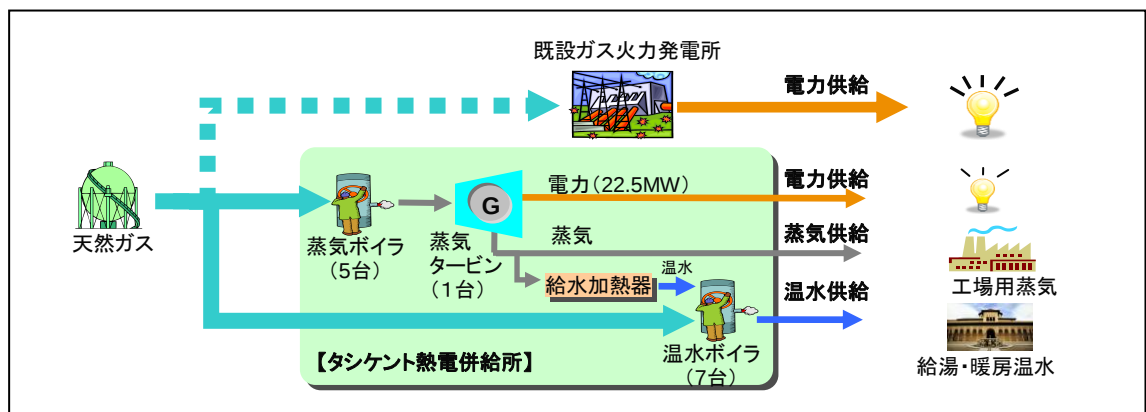


3. 本プロジェクトの概要

(1) 事業概要	既設熱電併給所に高効率ガスタービン・コジェネレーション設備を導入し、省エネルギーを図るモデル事業（両国政府による共同事業）
(2) 実施場所	ウズベキスタン共和国タシケント市（首都）
(3) 設備出力	電気出力（ガスタービン）：27,000kW 熱供給量（排熱回収ボイラ）：37Gcal/時（電気出力43,000kW相当） ガスタービン設置後の合計出力：49,500kW [蒸気タービン（22,500kW）+ ガスタービン（27,000kW）]
(4) 実施内容	（日本側）機器の設計・製作・輸送。相手国側が実施する建設工事・試運転・実証運転への技術指導 （相手国側）土木建築工事、機器据付工事、試運転、実証運転
(5) 工 程	土木着工：平成23年度 運転開始：平成25年度

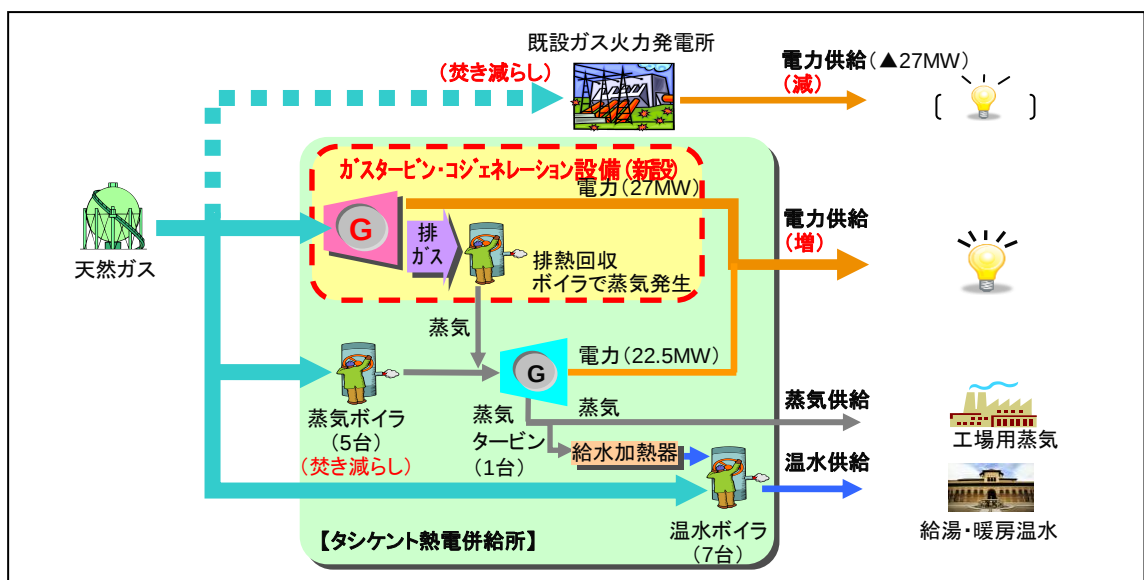
＜設備導入概念図＞

【導入前】

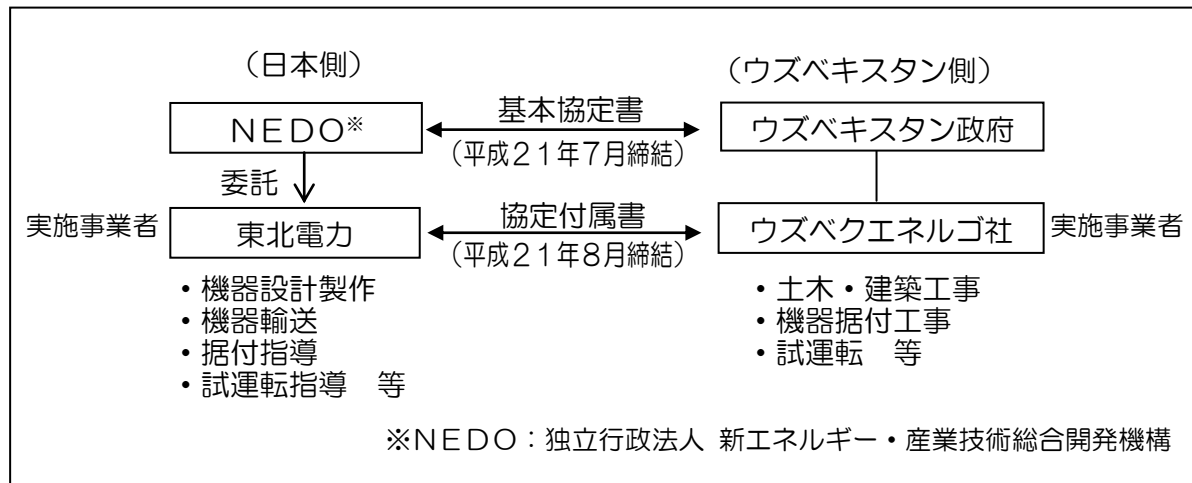


(G: 発電機)

【導入後】

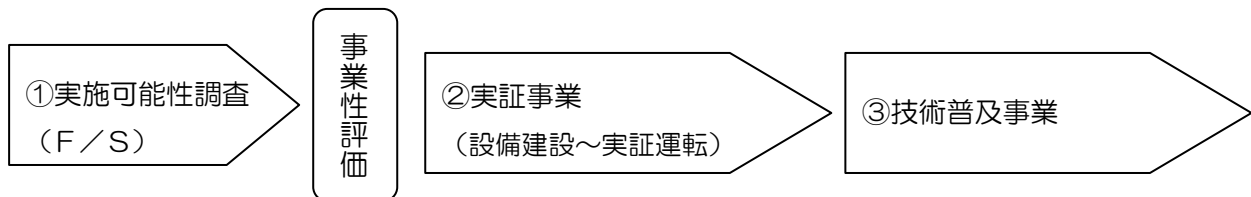


4. 事業の実施体制



(参 考)

「省エネモデル事業」は、日本において既に実用化されている省エネルギーに関わる技術を開発途上国等に導入してその有効性を実証し、その技術を定着、普及させることを目的に、NEDOが実施しているもの。以下の三段階に分かれている。



以 上